

第26回参議院議員選挙に対する中央本部見解

2022年7月10日、第26回参議院議員選挙の投開票が行われ、与党の圧勝という結果となった。しかし、JR東労組が推薦した候補については12名中6名が勝利し、組織一丸となり応援した「鬼木まこと」も勝利することができた。

当選した推薦候補者からは「鉄道の問題を国会で取り上げる」「JR総連・JR東労組の要望を託して欲しい」等と言葉が投げかけられている。厳しい選挙結果となったが、JR総連・JR東労組運動に賛同する議員との連帯を強化していく端緒を切り拓くことができた。JR東労組の運動に理解し、奮闘して頂いた組合員・家族・連帯する全ての仲間感謝を申し上げます。

参議院議員選挙の大きな争点は「憲法改正」であった。しかし、「物価上昇」や「ウクライナ情勢をめぐる安全保障問題」が前面に押し出され、争点がずらされたことを見ておかなければならない。憲法改正に前向きな「改憲勢力」は、衆・参両議院で3分の2以上となった。憲法改正が発議されれば、通過する状況となった。

産経新聞社説では選挙結果を受け「今こそ憲法改正をやり遂げるべきである。岸田首相は安倍氏の遺志を継ぎ、不退転の覚悟で実現させなければならぬ」「防衛力の増強が急務であることを有権者が理解した表れだ」と安倍元首相の突然の不幸をも利用し、憲法改正と軍備増強を叫んでいる。

改憲勢力に対する野党は足並みが揃わず、一人区で自民の圧勝を許した。連合は、結成経過を理由に日本共産党を排除する一方、連合との関係強化を目指す自民党との連携を強めている。この連合の姿勢が、自民党の圧勝を許してしまった原因の一つとなったのではないか。この課題を克服し、改憲勢力に対する対立軸をつくり出す事が問われている。

ウクライナの悲惨な現状を目の当たりにし、鉄道は軍事利用され、そして標的になることを改めて実感させられた。そのことから憲法改正に反対し、憲法9条を守り広めるたたかいを堂々と推し進め、連帯の輪を広範につくり出していくことが必要である。

経営優遇の「アベノミクス」によって、企業の内部留保は増大したが、労働者の実質賃金は20年間もの間、横ばいを続けている。岸田政権も「新しい資本主義」「成長と分配」を掲げているが、「アベノミクス」を踏襲しているに過ぎず、経営側の優遇措置はさらに加速をしていくであろう。

JR東日本においても、組織再編や働き方改革など各種施策が進められ、今後乗客が極めて少ない地方路線を公表することが発表された。利益を追及するあまり、「安全・健康・ゆとり」が蔑ろにされ、地方交通が切り捨てられることがあってはならない。職場のたたかいを基礎に、今参議院議員選挙で培った連帯を活かし、発生する問題の解決を目指していく。

今選挙の最中、安倍元首相が銃撃され亡くなった。そして、ロシアがウクライナに軍事侵攻して4か月半が経過し、多くの人間・労働者の命が失われた。JR東労組は、民主主義において暴力は断じて認めない。抵抗とヒューマンイズムの精神で、堂々と「テロにも戦争にも反対」を掲げていく。

JR東労組は全組合員と共に、平和な社会の実現と組合員の雇用と利益を守るために、今参議院議員選挙で培った連帯をさらに強化し、たたかいをつくり出す決意である。

2022年 7月 11日
東日本旅客鉄道労働組合